

弾糾徹底誠嶋屋コロビ労働者売り渡す



動労千葉

85. 8. 3

No. 2006

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

「処分」策動に対しては、あらゆる手段を徹底的に叩きぬく

全組合員のみなさん。動労「本部」革マルは、またしても悪どい手段を使い動労千葉への組織破壊攻撃を行っている。憎むべき嶋田誠は、わが動労千葉組合員を挑発したうえで「業務妨害」をデッチ上げ、当局に「処分」を要求している。革マルという己の正体をおしくして動労千葉に潜入し、動労千葉を破壊しようとする権力、当局、動労「本部」の先頭に立って労働者を傷つけ、売り渡す嶋田誠を断じて許すな。

動労千葉破壊のために潜入した嶋田誠

七月二二日、千葉駅構内の食堂で食事を終え、便乗のためホームへ向かおうとした千葉運転区支部組合員のA君に対し、「活用策」の夏季売店でジュースを販売していたデッチ上げ「津田沼支部支部長」（組合員六名）・革マル嶋田誠は挑発的な態度をとったのである。

A君がこれに抗議し、一ノ二分口論となったが、嶋田誠は「業務妨害された」として千葉局、本社にタレこみ、「処分」を要求するという断じて許せぬ暴挙を行い、これを受けた当局は、待ってましたとばかりに「弾圧」を加えようとしている。われわれは、嶋田誠がいかなる男であるのかはつきりさせなければならぬ。

嶋田誠なる男は、東洋大学出身の経歴をかくして国鉄に就職し、津田沼電車区へ配属されるやわが動労千葉に加入した。

ところが、一九七九年の分離・独立時に動労千葉への加入を拒否（一人は加入届を提出）するなど、不自然な行動をとるに及び、調査の結果、東洋大学出身であり、しかも革マル派の活動家であった事実が判明した。

嶋田誠の悪業の数々

嶋田誠は己の正体が明らかになるや、動労千葉破壊の先頭に立ち、数々の悪業をくり返してきた。

第一に、一九七九年三月三〇日に分離・独立をかちとった動労千葉をつぶすために、動労「本部」革マルは大量動員をかけ、連日職場におしかけてきていたが、津田沼支部結成大会を翌日に控えた四月一七日、神保、大久保、徳永、清水をはじめ青竹、パールで武装した革マル学生を先頭に一五〇名で襲撃し、安全衛生委員会を開催中の津田沼支部役員が防衛したもの、片岡支部長（当時）の頭蓋骨折をはじめ全員が負傷する事件が発生した。これを手引きしたのがほかならぬ嶋田誠で

ある。

第二に、八〇春闘勝利にむけた「4・16スト」の前日、動労「本部」革マルは新幹線ストを前日放棄し、東京、新幹線の反動分子二六〇名のヘル部隊を組織して津田沼電車区へおしかけた。

動労千葉はスト破壊襲撃を粉碎し千葉、鹿島、蘇我、津田沼地区でのストを貫徹したが、動労「本部」革マルは正式書面をもって弾圧、処分要請を行い、当局は布施執行委員（当時）の不当解雇を強行したが、前日、わが組合員に「明日はおもしろくなるぞ」、「関東青年部二〇〇が来るからな」と予告し、手引きしたのが嶋田誠である。

第三に、一九八一年六月十二日、仙台、盛岡への短期転勤から帰り、津田沼電車区配属となった八名をめぐり、嶋田誠は「暴力事件」をデッチ上げ、動労千葉の組合員を船橋警察に告訴する暴挙を行った。いわゆる「6・12事件」であり、権力は津田沼支部組合員六名を不当逮捕し転向強要を策したあげく三名が起訴し休職とされ、現在も裁判闘争を闘いぬいているが、嶋田は動労千葉をつぶすために、労働者を権力に売り渡すことを平然と行う反動分子なのである。

コロビ屋・嶋田誠を断じて許さない

このように、嶋田誠は動労千葉破壊のために送りこまれた革マル反動分子である。

嶋田誠は動労千葉組合員を挑発し、一言でも抗議すれば「業務妨害」をデッチ上げ、動労千葉の組合員を首にしようと綱を張っていたのだ。

この日、佐倉支部のB君が夏季売店の前を通ると、嶋田誠を先頭に、居あわせた革マル・長谷川、海宝らが同様の挑発をくり返した事実が判明している。

われわれは、労働者の首切りを要求する嶋田「本部」革マルを断じて許さない。と同時に革マル・松崎の哀願をうけ、当局が「処分」攻撃を加えるならば、あらゆる手段を使い徹底的に闘いぬくものである。